

### 第3回例会 「将軍塚・青龍殿と大舞台」見学

11月26日。京都が1年で最も美しく、そして最も忙しくなるこの季節を大いに堪能すべく、野外例会を開催致しました。今回は京都の始まりの地でもある将軍塚と新名所青龍殿、そして大舞台見学です。参加者は食事のみの会員も含め12名。その内、例会初の試みとして子供2名も参加致しました。

先ず三条の「和食がんこ」にて昼食。支部長の挨拶、阪田会員の乾杯の音頭の後、彩豊かなお料理を楽しみながらの歓談。子供たちの賑やかな声も相まって和やかな会食となりました。



食事の後は循環バスに乗って将軍塚へ。曲がりくねった道をどんどん登って行くバスに展望への期待も膨らみます。そして出会った大パノラマに一同感嘆の声。正に京都一望の素晴らしい眺めでした。大舞台は清水寺の舞台の4.6倍の広さを誇り、晴れの日には西展望台から大阪のビルまで遠望出来るとの事。



「新幹線！」と子供ならではの声も飛び出し、子供から大人まで楽しめる京都の景色は懐が深いと感じました。



大舞台を心行くまで楽しんだ後は新名所「青龍殿」へ。青龍殿は大正2(1915)年、大正天皇の即位を記念して「大日本武徳会京都支部武徳殿」(戦後、京都府に移管され「平安道場」に改名)として京都北野天満宮前に建立されました。平成10(1999)年、京都府の平安道場解体処分決定。平成21(2009)年、青蓮院が歴史的文化遺産の継承の為移築再建を決意。平成26(2014)年に完成しました。奥の殿には国宝である「青不動明王二童子像」が安置されています。今回は複製の参拝でしたが、力強さがひしひしと伝わって来ました。青龍殿の建物も美しく、磨きこまれた床や年月を掛け丸みを帯びた木に歴史を感じ、こうして次世代に継承された事への感謝の念が湧き起ります。



そして一行は将軍塚、庭園へ。将軍塚は8世紀末、桓武天皇が都を定めるに際して



和気清麻呂に伴われ登り、眼下に広がる一帯を都にする事を決めました。そして將軍を模した土の人形に甲冑を着せてこの地に埋め、都の安泰を祈願したと言われています。  
この場所で歴史が動いたかと思うと歴史好きでなくとも心が震えます。そして美しい紅葉。  
終始参加者には笑顔がこぼれ、大満足の会となりました。



私感ではありますが、ここ数年子育てに追われる日々で、紅葉を愛でる余裕は全くありませんでした。しかし、今回全力で命を燃やす木々の紅葉に触れ、歴史に触れ、心が豊かになった気が致します。親の心は子供に敏感に伝わるもの。豊かになった心が細る事無く、大舞台の如く広い心となって今後の子育てに反映されればと願うばかりです。

